

(資料3)

中定商店大五蔵、昭二蔵、昭三蔵（なかさだしょうてんだいごぐら、しょうにぐら、しょうさんぐら）

員 数：3棟

所在地：知多郡武豊町字小迎 51

所有者：合名会社 中定商店

1 登録理由

中定商店大五蔵

変形敷地に合わせた台形平面を持ち、仕込み蔵として建てられた。建ちの低い2階は、「2階麹」と呼ばれた味噌玉に麹菌を繁殖させる部屋として使用された。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

中定商店昭二蔵

敷地南寄りに建つ平屋建の土蔵で、キングポストトラスを用いた洋小屋である。仕込み・圧搾場として建てられた。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

中定商店昭三蔵

敷地南東隅に建つ平屋建の土蔵で、大きな仕込桶を多数並べるために、小屋組はキングポストトラスを用いて、梁間約11mに柱を立てない構造となっている。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

2 概要

中定商店大五蔵

土蔵造2階建、瓦葺、建築面積106㎡、建設年代 大正5年、昭和41年・同48年・同62年
改修

中定商店昭二蔵

土蔵造平屋建、瓦葺、建築面積87㎡、建設年代 昭和2年頃、昭和中期・同60年改修

中定商店昭三蔵

土蔵造平屋建、瓦葺、建築面積202㎡、建設年代 昭和3年頃、昭和20年頃・同63年・平成12年改修

愛知県の知多地域は、近世以来酒造をはじめとする醸造業の盛んな地域として知られ、現在も全国有数の醸造企業がある。知多半島中央部東側、三河湾に面して位置する武豊町では、江戸時代後期に北の小迎、南の大足、両地区で味噌・溜の醸造が始まったが、明治19年(1886)に鉄道の武豊線、明治32年(1899)に外国貿易港として武豊港が整備されると、外国産大豆の輸入、製品の出荷に利便な両地区で醸造家が増加し、味噌・溜で全国有数の生産地となった。

合名会社中定商店は、小迎地区に残る唯一の味噌・溜醸造を生業としている。隣接する本家の2代目なかがわぶんざえもん中川文左エ門が味噌・溜製造を始めたが、本家3代目の三男中川定平なかがわさだへいは慶応2年(1866)に

分家し、中川定平なかがわさだへいの名で明治12年(1879)に同じく味噌・溜製造を始めた。初代氏名を三代に渡り襲名、昭和7年(1933)3月2日中川定平の「中」と「定」をとり、合名会社中定商店を商号とした。現在は6代目に受け継がれている。

大五蔵は、大正5年(1916)に仕込蔵として竣工したもので、現在、味噌・溜文化の継承と伝承を目的に、「醸造『伝承館』」として整備されている。変形敷地に合わせて建つ、土蔵造2階建の建物である。梁間4間(約7.9m)、西桁行6.5間(約11.8m)東桁行6間(約10.9m)、1階西側に取り付く下屋は、北妻(約1.2m)、南妻(約1.7m)と南側で深くなっている。

切妻造、棧瓦葺、腰壁縦羽目板張¹に漆喰塗、妻壁は簷子下見板張²である。1階、2階とも間仕切のない一室で、片引込の換気窓が1階に2か所、2階に11か所ある。中2階程の高さで軒が低い2階は、蒸した大豆を球状にした味噌玉に麹菌を繁殖させる「2階麹」と呼ばれる部屋で、床の旧状は竹筵たけむしろ敷であった。

小屋組は、ヨキ(斧)仕上の棟持柱で支える地棟に架る丸太の登梁構造で2階の空間を確保する。2階床組は丸太の梁組と丸太の大引・根太で床を支える構造となっている。母屋・垂木も丸太、屋根は当初のままで、目を透かして張った野地板の上に蓆むしろを敷いて瓦を載せる当初の工法が野地板の隙間から確認できる。

昭二蔵は、昭和2年(1927)に仕込・压榨場として竣工したもので、現在、製造された味噌・溜の店頭販売の施設として整備されている。敷地に入り込む西側公道に沿って建つ、桁行6.5間(約11.8m)梁間3.6間(約6.6m)の土蔵造平屋建の建物である。北妻西寄りに桁行1間半(約2.7m)梁間1.8間(約3.1m)の下屋が出る。

下屋は従業員用浴室として増築されたものである。当初あったレンガ煙突が壁の一面に取り込まれて残っている。南東で昭三蔵と並び接続する。切妻造、棧瓦葺、簷子下見板張、西外壁面には旧出入口を改修した1間幅の引違窓と4箇所の換気採光の小窓、東外壁面には2箇所の換気採光の小窓が付く。大屋根は母屋、垂木も製材によるキングポストトラス³の洋小屋である。

昭三蔵は、昭和3年(1928)に当初仕込・压榨場の建物として竣工したもので、現在は広い空間を活かし、味噌文化を伝える「手作り味噌教室」などのイベント会場として幅広く活用されている。南面道路に並行に建つ東西棟、木造平屋建土蔵造、上屋桁行8.5間(約15.4m)梁間6間(約10.9m)、北面に梁間1間(約1.8m)の下屋を付ける。昭二蔵と北西で接続する。切妻造棧瓦葺、腰壁縦羽目板張、漆喰塗、大規模な木造建築で、南外壁面には4箇所、西外壁面には2箇所、東外壁面には1箇所の換気採光の高窓が付く。南窓の外側には片引板戸があり、長い竿により開閉が可能な取手が特徴的である。出入口は、西外壁面に約3.0mの大きな両引分け板戸が付く。内部は間仕切のない空間で、「本蔵仕込桶配置図」によれば、高さ7尺(約2.1m)の桶が東西に5列、南北に4列入る大きな空間が必要とされたため、梁間6間(約10.9m)、中2階程度の高さ(梁上3.96m)の広大な空間である。キングポストトラスの洋小屋で屋根を支え、挟み釣束、挟み二重梁で組んで柱を建てない構造となっている。昭二蔵とわずか1年違いの建設であるが、小屋組補強の相違が興味深い。

縦羽目板張¹：板材を縦に張る形式。

彫子下見板張²：壁板を張るときに、羽重（はがさね）にした下見板への押縁（おしぶち）として、縦に打ち付ける細長い木材。

キングポストトラス³：三角形をつくって構造を構成するトラスのうち、中央に真束と呼ばれる支柱の立っている形式。



中定商店大五蔵 東正面（外観）（武豊町教委提供）



中定商店大五蔵 2階北面（武豊町教委提供）



中定商店昭二蔵 南正面（外観）（武豊町教委提供）



中定商店昭二蔵 事務所北面（武豊町教委提供）



中定商店昭三蔵 南西から（外観）（武豊町教委提供）



中定商店昭三蔵 東面内部（武豊町教委提供）